

くらす・まなぶ・つくる 様々な稽古・研修・生活

毎日の生活の中での料理、季節毎の農作業、講義や茶道、陶芸などのもの作り。研修所でのカリキュラムは、太鼓や踊りなど様々な郷土芸能の根っこに近づくために、自分達の心身を耕してゆく取り組みです。



■ 太鼓・踊り・唄・笛の稽古

太鼓をたたく前に、撥を作り、締め太鼓の締め上げ(音のチューニング)を覚え、太鼓の基本的な打法を段階を追って学びます。曲としては「屋台囃子」「三宅」「大太鼓」「八丈太鼓」「千里馬」など様々なスタイルの太鼓を稽古します。

踊りでは「鬼太鼓」「剣舞」「さんさ」「西馬音内盆踊り」など全国各地の様々な芸能を学びます。唄の稽古では、発声・音程・リズムなどの基本から作曲や合唱まで声を用いた表現、笛の稽古では、一年目に基礎的な音の出し方、二年目は選択制で応用的な内容を学びます。



■ 能・狂言・茶道・講義など

能(宝生流)・狂言(和泉流)では、基本となる謡の稽古を中心に行います。本物の能舞台での稽古や、佐渡の能楽愛好者のみなさんの発表会へも参加します。また茶道では、一年目に盆略点前、二年目からは選択制で薄茶点前(炉)まで学びます。

講師の先生方による佐渡の歴史や自然に関する講義があり、また俳句は季節ごとに吟行をします。地元の方から山菜採りやわら草履作り、魚の捌き方や陶芸などの生活の知恵を教えて頂く時間もあります。造形は、入所してすぐ、伐り出した一本の竹からそれぞれの箸を作ることから始めます。



■ 農作業(田圃・畑・柿)

農作業は無農薬・有機栽培で、大部分は手作業で取り組みます。それぞれの季節を感じながら、稽古の合間をぬって天気と相談しながら行います。

田んぼは合わせて三反余り(50mプール三つ分くらい)の広さで、研修生の食事約4ヶ月分をまかないます。畑では自分達で選んだ季節の野菜を作り、また柿畑では、遠くに海を眺めながら約月一回の作業を行います。

11月には、日頃お世話になっている皆さんを研修所にお招きして「収穫祭」を開きます。米、柿、サツマイモなど、自分達で作った食材で料理を作り、おもてなしします。



■ くらし

研修所での共同生活は、人と人のつながりの中で生きていく力をつける大切な学びの要素と位置づけています。

食事当番や身の回りの生活を研修生全員で協力し工夫します。

■ 実地研修

佐渡で行うワークショップ「鼓童塾」や「太鼓体験塾」のアシスタント、「アース・セレブレーション」「鉱山祭」「鼓童十二月公演」の準備から本番まで実践を通じてスタッフワークを学びます。大きな祭りを作り上げる大変さと充実感を体験します。



■ 祭りへの参加

佐渡では集落ごとに神社の祭りがあり「鬼太鼓」という芸能が盛んです。研修生は地元の祭りに受け入れていただき、生活の中の祈りから生まれた芸能を肌で感じていきます。

4月、2年生は柿野浦の祭りに参加。鬼役、太鼓役に選ばれ、集落の一員となるこの日の体験は、研修生にとって無上の喜びです。また9月には1年生が岩首の祭りに参加し、芸に対する熱い思いや、地域の絆の深まりに触れます。これら研修所の地元の祭りには毎年、島を離れた卒業生の誰かが心の故郷として帰ってきます。夏には鼓童の本拠地、小木地区の祭りに参加させていただき小木の方々と親交を深めます。

研修所の一(夏時間)

※時間割りは季節によって変わります

- 4:50 起床、体操、掃除、トレーニング
- 6:50 朝食
- 7:30 ストレッチ、締め上げ、朝稽古

9:30 午前の稽古

稽古の時間は太鼓や踊り、唄などの他に、農作業や造形、講義の時間も。年間およそ2/3が太鼓や踊りなどの時間、残りの1/3がそれ以外の時間に充てられます。

12:30 昼食・休憩

食事と休憩の時間です。個人稽古をしたり、午後の稽古に備えます。

14:00 午後の稽古

稽古は基本的に研修所で行われますが、内容によっては鼓童村でも稽古をします。季節や天候によっては野外でも稽古をします。

18:30 夕食

19:30 各自の時間 ~就寝